

体のシグナル

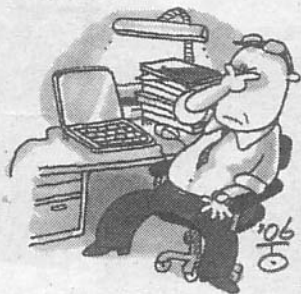
目の疲れ

勤務医のAさん(52、男性)の病院に、最近コンピュータシステムが導入された。診察日には、慣れない入力作業を一日中しなければならず、夕方には目の重さを感じている。

DVDで映画を見ることを趣味にしているが、最近は帰宅後見る気がしない。近くの眼科医を受診したところ、「老視が始まっているので遠近両用の眼鏡を処方しましょう」といわれ、新しく眼鏡を作った。

しかし、新しい眼鏡をかけた後も診察後の目の疲れが続いたため、心配になり大病院を受診した。精密検査をする

眼鏡の調整や点眼薬で治療



イラスト・及川 百合子

ることによるドライアイなどが原因として考えられる。

治療法としては、眼鏡の度数調整、プリズム入りの眼鏡の処方、人工涙液の点眼薬、目の疲れをとる点眼薬、内服薬など

と、目の調節を担う毛様体筋が過緊張の状態にある調節緊張症であることが分かった。目の疲れを訴える人は、コンピュータの普及に伴い増加している。

業務などで長時間近くを見ることによる調節緊張症、近くを見るとときに両目の内向き運動が不十分な幅湊(ふくそう)不全、コンピュータ

作業時にまばたきの回数が減

(大阪大学医学部教授

不二門 尚)